

## 天の国について教えられる

マタイ13:31~33、44~52 / 李正雨師

先週の説教の中で、私は皆様にマタイによる福音書13章は、天国についてのたとえであると申し上げました。説教の本文であった種を蒔く人のたとえ、毒麦のたとえ、両方とも、天国に関するたとえです。クリスチャンとして、神様の言葉を悟ることと忍耐するのは、非常に大切なことです。天の国は、こういう人々に与えられるからです。そして今日の福音書は、このような天国のたとえの中、追加のたとえです。今日の福音書のたとえは、3つです。からし種とパン種のたとえ、畑に隠された宝と良い真珠のたとえ、湖に投げ降された網のたとえです。前のたとえとは違い、今日の福音書のたとえは短いです。弟子たちがイエス様に説明を求めたり、イエス様が弟子たちに説明して下さったりすることはありません。しかし、この短いたとえは、前のたとえを補う役割をします。それで、弟子たちはこれらのたとえを聞いて、イエス様が言われる天の国について分かります。今日の福音書51節の言葉です。「『あなたがたは、これらのことがみな分かったか。』弟子たちは、『分かりました』と言った。」では、今日の福音書の中に入れてみましょう。

今日の福音書の最初のたとえは「からし種とパン種のたとえ」です。このたとえでの天国は、からし種とパン種にたとえられます。皆様、からし種を見たことがありますか。スクリーンを一度ご覧ください。指の上に載せられたあの小さな種がからし種です。そしてその隣の写真が成長したからし種の木です。あんなに小さな種一つが約2メートルを超えるからし木になり、たくさんのからし木が群落を成り立たせて鳥が巣を作るほどの場所になるのです。からし種だけを置いてみたら、鳥が巣を作るほどの木に成長するとは信じ難いです。しかし、からし種は、私たちの考えとは違って成長します。パン種も同じでしょう。少しのパン種でも、パンを大きく膨らませることができます。

イエス様は天の国がこのようなものだと言われます。この世での天国は、わずかなからし種やパン種ほどの扱いを受けていると思います。忙しくて、急速に変化しているこの世で、天の国は大衆の関心と共感を得にくいからです。しかも、目立つものではないので、目の前のことだけに熱中している人々にどんな影響力も行使できません。わずかなクリスチャンが信じている非常に小さなもの、何もないものとして見られるかもしれません。しかし確かなことは、時が至ると、この天国が見えるようになるということです。まるで鳥が巣を作ったからし木のように、大きく膨らんだパンのように、天の国はみんなに見えるのです。そして私たちのところに臨むのです。これが天の国についてのイエス様の言葉です。ですから、イエス様は弟子たちにこのような祈りを教えてくださいました。「天にましますわれらの父よ、願わくは御名をあげさせたまえ、御国を来たせたまえ。」天の国を意識し、期待して生きるのは、決して無駄ではありません。天の国は必ず私たちのところに臨み、その実体は必ず明らかに示されるからです。

二番目の天の国のたとえは「畑に隠された宝と良い真珠のたとえ」です。最初のたとえが目立たない天国について語っているのなら、この二番目のたとえは、隠された天国について語っているのです。そして、最初のたとえとは違って、天の国に気づく人がいるということを語っています。畑に隠された宝を見つけた人、良い真珠を探している人がいるということです。過去、パレスチナ地域には銀行のような機関もなく、泥棒や略奪も頻繁に起こったため、貴重品を自分の畑に隠す場合があったそうです。そのうちに畑の中に隠されたまま主人を失ってしまった貴重品がかなりあったそうです。だから律法によると、誰かが貴重品を畑で見つけた場合、畑の主人にその貴重品を取らせました。畑の主人が貴重品の主人又は貴重品の主人の家族である可能性が高かったからです。

ところが、このたとえでは宝を見つけた人がその畑を買ったと語ります。今の基準から見ると、これは法的にも道徳的にも間違ったことですが、当時は、通用していたことでした。むしろこれを賢明なことと思っただけでもあります。価値あるものを得るために自分の持ち物をすっかり売り払ったからです。良い真珠のたとえも同じです。良い真珠を持つために、商人は自分のすべてを売り払って真珠を買います。最高の価値のためには、自分の持ち物をすっかり売ることができるとのこと。これがこのたとえが教えていることではないかと思えます。私たちクリスチャンにとって、天の国はこのようなものです。他人には隠されている最高の価値、私たちのすべてをすっかり売り払って購入するものです。初代教会の人々の生活を見ると、このような姿がよく現れています。彼らは隣人の救済のために自分の財産や持ち物を喜んで売り払いました。これは、マタイによる福音書19章でイエス様が「行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。」と言われたからです。それで初代教会の人々は、救済が最高の価値だと思い、救済によって天に宝を積むことになると思いました。天の国を買うために自分の財産を売り払って救済したのです。皆様は、どこに最高の価値を置いておられますか。私たちに与えられた天の国をよく守られる皆様になりますように願います。

今日の福音書の最後のたとえは「湖に投げ降ろされた網のたとえ」です。このたとえは先週の福音書の毒麦のたとえと似ています。網に捕まったすべての魚が器に入れられるわけではありません。魚の中で悪いものは捨てられるでしょう。旧約聖書レビ記11章によると、ユダヤ人には食べてはいけない魚がありました。ひれとうろこのない魚は、食べてはいけないものでした。このような区別は、彼らが神様に選ばれた民族であることを示すことでした。それでユダヤ人の漁師たちは、48節の言葉のように良いものは器に入れて、悪いものは投げ捨てました。イエス様はこの世の終わりにもそうなると言われます。悪と悪人は必ず裁きを受けることになると言われます。これが今日の福音書の最後の天国のたとえの意味です。

今日の福音書をまとめてみましょう。この世で天の国は、目立たなくても、隠されていることもあります。しかし、時が至ると必ず見えるようになり、隠されている天国を見つける人もいます。そして網に捕まった魚が分けられるように、善と悪についての審判は必ずあるのです。このことがイエス様が私たちに教えてくださった天の国のことです。天の国は、こうして私たちの世界に知らされるのです。目によく見えなくて、隠されたまま知られるのです。しかし、時が来れば見えるようになり、天の国を見つける人は、それを自分の最高の価値と思うでしょう。そして審判の日は必ず来ますが、審判はあくまでも悪に対する審判になります。神の民は、裁きの日天の国に入ることになります。

イエス様は、これを自分の弟子たちが悟り、他人に教えるようにとお望みになりました。それで、弟子たちに「これらのことがみな分かったか」と尋ねられます。この世を生きているクリスチャンにとって、天の国の教えを悟り、待ち臨むことは、大切なことだからです。この世は我々のすべてではありません。私たちには、この世よりも重要な天の国があります。この言葉を覚えて毎日毎日を生きていかれる皆様になりますように。天の国を最高の価値と思う皆様になりますように、主の御名によって祈ります。アーメン